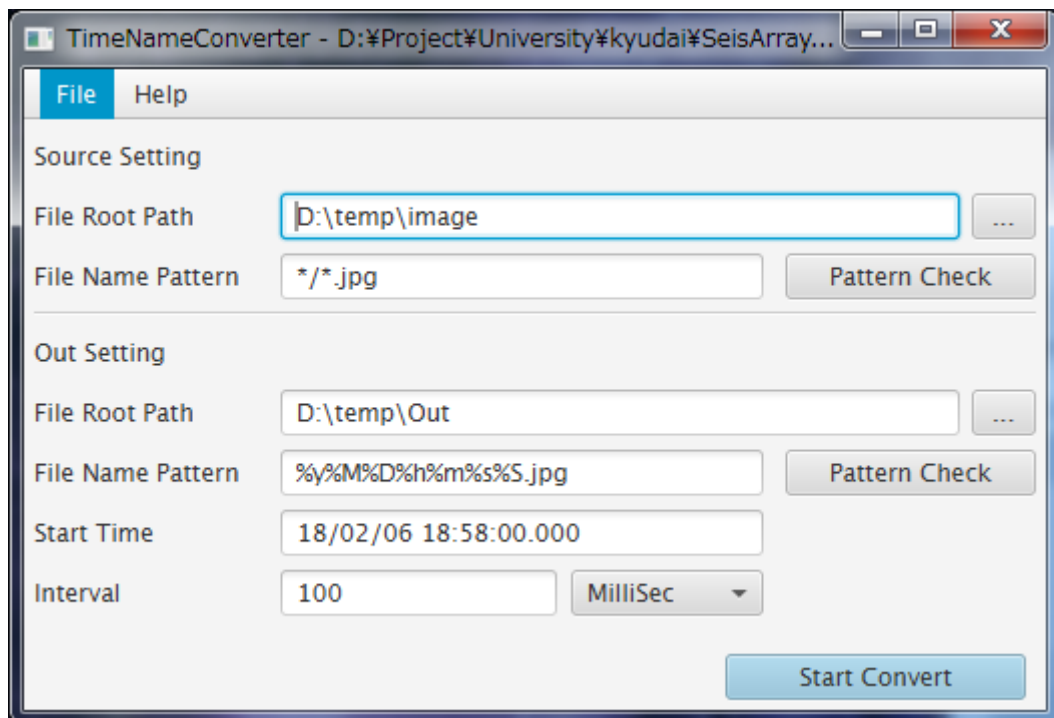


地震計アレイデータ統合表示システム
時刻付きファイル名変換ソフトウェア

TimeNameConverter

取扱説明書



目次

1. 概要	1
2. インストール	2
2.1. ご注意	2
2.2. 使用環境	2
2.3. インストール方法	2
3. 使用方法	3
3.1. 起動方法	3
3.2. メイン画面(TimeNameConverter)	4
3.2.1. メニューバー	5
3.2.2. 元ファイル設定(Source Setting)	5
3.2.3. 出力ファイル設定(Out Setting)	5
3.2.4. バージョン情報画面	6
3.3. ファイル名パターン	7
3.3.1. File Root Path	7
3.3.2. File Name Pattern	7
3.3.3. Pattern Check	8
4. 変換処理	9
4.1. 変換開始(Start Convert)	9
4.2. 変換動作について	9
5. ライセンス	10

1.概要

本アプリケーションは、シーケンシャル番号がファイル名になっている画像等の SeisArray で扱えないファイル名のものを SeisArray で扱えるように、ファイル名を変換するためのソフトウェアです。

特長

- JavaFX で作成したアプリケーションであるため、Java (1.8 以上) が動作する OS 上であれば動作させることが可能です。
- 元となるフォルダとファイル名規約、出力するフォルダとファイル名規約及び開始時刻と間隔を指定する事により、元となるファイルを抽出して、タイムスタンプ付きファイル名に変換して保存する事が出来ます。

ご注意

- 本マニュアルの内容は、予告なしに変更することがあります。
- 本アプリケーションを使用した事による、いかなる損害も保証致しかねます。自己責任でご使用頂けますようお願い致します。

2.インストール

2.1. ご注意

本アプリケーションにインストーラはありません。手作業にてインストールして頂く必要があります。

2.2. 使用環境

本製品は以下の環境での使用を確認、推奨しています。

CPU	x86、x64形式プロセッサ	1 GHz以上
RAM	4GByte以上	
OS	Windows10/8.1/7、CentOS7	
必要環境	Oracle Java1.8以上	

2.3. インストール方法

1. Java のインストール

Oracle Java1.8 以上をインストールしていない場合、以下のサイトから環境にあった Java をダウンロードしてインストールを行って下さい。

<https://www.java.com/ja/>

2. アプリケーションのインストール

TimeNameConverter.zip を任意のフォルダ上で展開して下さい。

3.使用方法

3.1. 起動方法

- Windows の場合

エクスプローラでインストールしたフォルダを開き、TimeNameConverter.jar をダブルクリックするとアプリケーションが起動します。

コマンドプロンプトで動作させる場合には、インストールフォルダに cd し、`java -jar TimeNameConverter.jar` とすることでアプリケーションが起動します。

- Linux の場合

X-Window 上でターミナルを開き、cd を用いてインストールフォルダに移動し、`java -jar ./TimeNameConverter.jar` とすることでアプリケーションが起動します。

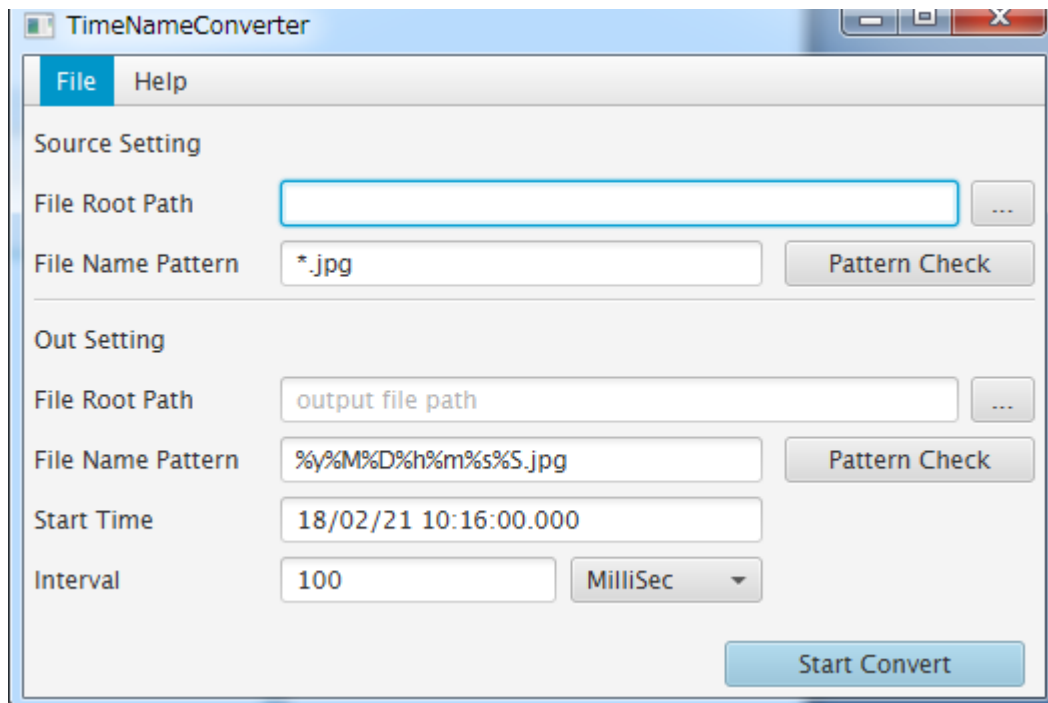
標準で openjdk がインストールされている場合、デフォルトパスが openjdk になっている場合があります。この場合には、パスを修正するか、起動時に java をフルパスで指定して下さい。例えば、/home/user/java に Java をインストールした場合は、

```
/home/user/java/jre1.8.0_133/bin/java -jar ./TimeNameConverter.jar
```

の様に指定します。

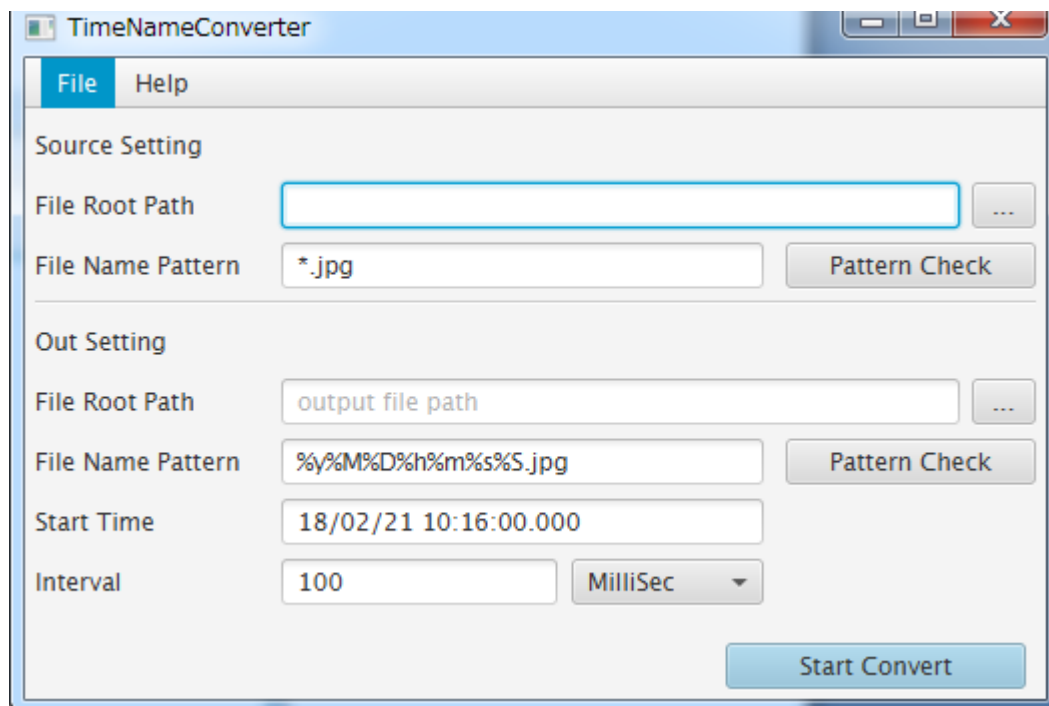
いずれの場合も、上手く起動しない時は、java にパスが通っているか、`java -version` とした時の表示がインストールしたバージョンと一致しているかを確認して下さい。

正常に起動した場合、次の画面が表示されます。



3.2. メイン画面(TimeNameConverter)

起動直後には、以下の画面が表示されます。



画面の概要を以下に示します。

項目	位置	説明
メニュー	画面再上段	メニューバーです。設定の保存、読み込み、ヘルプを選択する事が出来ます。
Source Setting	画面上段	元となるファイルをパスとパターンで指定します。
Out Setting	画面下段	出力先となるファイル名をパスとパターン及び、開始時刻、間隔で指定します。
Start Convertボタン	画面下段	変換処理を開始します。

ウィンドウのXもしくは、FileメニューのCloseをクリックすると、アプリケーションを終了します。設定内容は、明示的にFileメニューから保存しないかぎり保存されませんので、保存の必要がある場合には、必ず保存してから終了する様にしてください。

3.2.1. メニューバー

メイン画面のメニューバーは、設定の保存、読み込み、ビュー画面のオープン、クローズ等を行う事が出来ます。それぞれの機能について以下に示します。

・ File メニュー

項目	内容
Read	ファイル選択ダイアログが開き、読み込む設定ファイルを指定します。指定されたファイルに保存された設定を読み込み画面に反映します。
Save as	ファイル選択ダイアログが開き、保存先を指定します。指定されたファイルに現状の設定を保存します。
Save	現状開いている設定ファイルに現状の設定を上書き保存します。この項目は一度、Read及びSave asを行った後のみ選択可能となります。
Close	アプリケーションを終了します。

・ Help メニュー

項目	内容
About	アプリケーションのバージョン情報を表示します。

3.2.2. 元ファイル設定(Source Setting)

画面上段の Source Setting では、元データの設定を行います。

設定項目は次の通りです。

設定項目	設定内容
File Root Path	ファイルのルートパスを指定します。 詳細な設定方法についてはFile Root Pathの項をご参照下さい。
File Name Pattern	ファイル名形式をパターンで指定します。 詳細な設定方法についてはFile Name Patternの項をご参照下さい。
Pattern Check	パターンを用いて検索を行いファイル数を表示します。パターンが正常に設定できているかどうかをチェックする為に使用します。

3.2.3. 出力ファイル設定(Out Setting)

画面下段の Out Setting では、出力データの設定を行います。

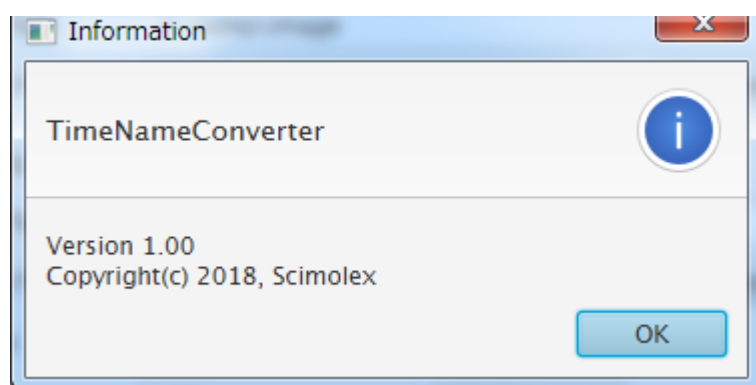
設定項目は次の通りです。

設定項目	設定内容
File Root Path	ファイルのルートパスを指定します。 詳細な設定方法についてはFile Root Pathの項をご参照下さい。

File Name Pattern	ファイル名形式をパターンで指定します。 詳細な設定方法についてはFile Name Patternの項をご参照下さい。
Pattern Check	パターンを用いて検索を行いファイル数を表示します。パターンが正常に設定できているかどうかをチェックする為に使用します。
Start Time	ファイル名に付けられるタイムスタンプの開始時刻を指定します。 YY/MM/DD hh:mm:ss.SSSの形式で入力して下さい。
Interval	次のタイムスタンプへの間隔を指定します。単位を右のコンボボックスから指定し、値は左のテキストボックスに整数値で入力して下さい。

3.2.4. バージョン情報画面

メニューから Help→About を選択すると、以下の画面が表示されます。



この画面は本アプリケーションのバージョン情報を表示します。

OK もしくは×をクリックすると画面を閉じ、メイン画面に戻ります。

3.3. ファイル名パターン

ファイル形式で Pattern を選択した際には、ファイル名から時刻を導けるようにファイル名パターンを設定する必要があります。ファイル名パターン設定には、2つの項目入力が必要となります。

3.3.1. File Root Path

ファイル格納場所の親フォルダを指定します。ファイルが階層化されて保存されている場合には、階層のトップを指定する事も出来ますし、範囲を狭める為に下位階層のフォルダを指定する事もできます。パターン検索の際には、ここで指定したフォルダ内を再帰的に検索するため、大量のデータが保存されたフォルダを指定すると検索に時間がかかることになります。

3.3.2. File Name Pattern

File Root Path で指定された親フォルダから、対象ファイルまでのパターンを指定します。年月日時分秒の書式は以下の表の様になっています。

項目	書式	説明
年	%Y、%y	%Yは4桁の西暦年、%yは2桁の西暦年を示します。%yの場合、70以上は1900年、それ以外は、2000年を足したものが西暦年となります。
月	%M	01～12までの2桁の月を示します。
日	%D	01～31までの2桁の日を示します。
時	%h	00～23までの2桁の時を示します。
分	%m	00～59までの2桁の分を示します。
秒	%s	00～59までの2桁の秒を示します。
ミリ秒	%S	000～999までの3桁のミリ秒を示します。

これ以外の書式として、以下の形式をサポートしています。

項目	書式	説明
ワイルドカード	*	ワイルドカード指定されている部分は、全ての文字列が当てはまります。1段下の階層全てのjpgを対象とする場合には、*/*.jpgの様に指定する事が出来ます。又、名前の一部分をワイルドカードとする事も出来ます。(test*.jpg等)
番号	%N	連番等の整数値番号を示します。 *この形式はSource Settingのみ指定可能です。

これらを用いてファイル名から時刻が解るようにパターンを指定します。

例えば、File Root Path からファイルまでのパスが、2017/07/170731/1707311234.jpg である場合、パターン指定は、%Y/%M/%y%M%D/%y%M%D%h%m.jpg のように指定します。

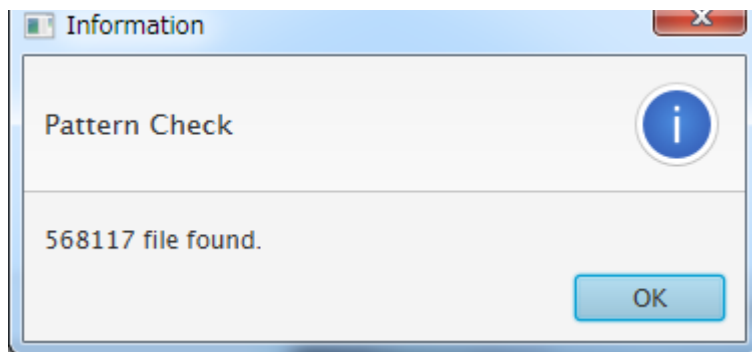
また途中のフォルダ名パターンにはワイルドカード(*)も指定可能です。例えば、上記のパターンをワイルドカードを用いて表すと、*/*/*/%y%M%D%h%m.jpg の形式で指定出来ます。但しこの場合、ワイルドカードのフォルダは、無条件に有効としてそのフォルダの下を検索しに行くため、時刻範囲(Time Range)を指定したとしても、検索にかかる時間を短縮できなくなります。一方ワイルドカードを用いない

パターン指定をして時刻範囲を指定した場合、例えば年フォルダを%Yで指定して、2016年を時刻範囲とした場合には、2017のフォルダは対象外としてその下を検索しない為、検索時間が短縮出来ます。

またファイル名に別な文字列が含まれている場合、例えばファイル名がtest1707311200.jpgである場合、パターンをtest%y%M%D%h%m.jpgのように指定することも出来ます。

3.3.3. Pattern Check

入力したパターンで正常にファイルが検索出来るかどうかをチェックする為に使用します。このボタンをクリックすると設定されたFile Root Path、File Name Patternを用いてファイルを検索し、該当するファイルが何個検索出来たかを結果として表示します。この際、時刻範囲（Time Range）が設定されていれば、その値も用いて検索されます。



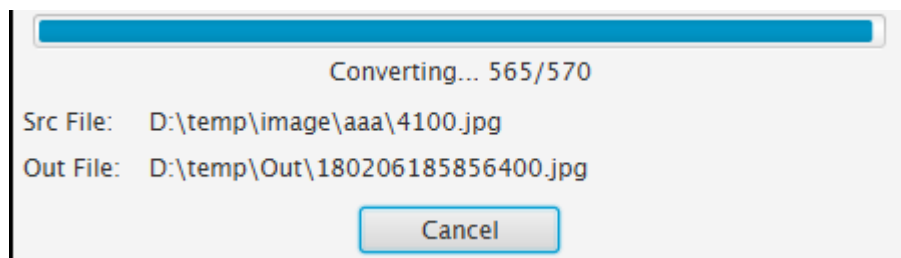
0 file found.となった場合には、指定が間違っている可能性が高いので再度入力をチェックしてください。

入力項目は、検索する前にチェックされ、入力不正がある場合には、ダイアログボックスにて不正箇所を表示しますので、修正を行って下さい。

4. 変換処理

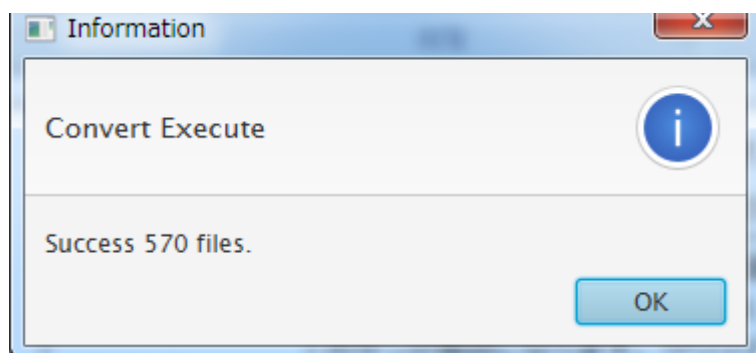
4.1. 変換開始(Start Convert)

画面右下の Start Convert ボタンをクリックすると、入力値に問題がなければ変換が開始されます。変換中は以下の画面が表示されます。



Cancel ボタンをクリックする事で、変換処理をキャンセルする事が出来ます。

正常に変換が完了すると上記進行画面が閉じられ、以下の様なダイアログが表示されます。



4.2. 変換動作について

ファイル名変換では、Source Setting で指定されたフォルダ内を昇順にパターンで検索したファイルを対象とし、出力フォルダに開始時刻(Start Time)から間隔(Interval)毎に時刻をずらしたファイル名を付けて保存されます。

この際、Source Setting の File Name Pattern に日時を含むパターン設定が行われている場合は、開始時刻以前の日付は無視するようにプログラミングされていますので、ご注意ください。元データのフォルダ名、ファイル名を出力ファイル名と一切関わらせたくない場合には、日時指定子は使わずワイルドカード等で指定するようにして下さい。

5.ライセンス

本ソフトウェアは、フリーのソフトウェアとして公開する予定です。

ライセンスは MIT License に則っています。以下にライセンスを示します。

The MIT License

Copyright (c) 2017 Masahiro Iino, Scimolex Corp.

以下に定める条件に従い、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル(以下「ソフトウェア」)の複製を取得するすべての人に対し、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、頒布、サブライセンス、および/または販売する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同じことを許可する権利も無制限に含まれます。

上記の著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載するものとします。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではありません。作者または著作権者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。

TimeNameConverter 取扱説明書 第 1 版

シモレックス株式会社

- 本書の一部または全部の複製を許可なく作成することをかたくお断りします。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。